

「モジホコリの実験 (6)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

変形菌は植物でも動物でも菌類でもない。粘菌の一種である。実際の育ててみると、「栽培」とか「培養」という語ではなく「飼育」という語が一番合っているように思う。特にモジホコリは飼育が非常に容易で、コツをつかめば、一日で倍近くに増やすことが可能だ。日本の温暖湿潤な気候にもよく合っていて、まさに「国民粘菌」とも言える変形菌と言えらるう。



変形菌を大量に増殖させたいければ、やはり寒天培地(何も栄養分を混入しない素寒天培地)が良い。上の写真は中段左右が古い菌体で、四隅と中央が新しい菌体である。寒天培地の家に古い菌体(元の菌体)を置き、そのあと餌のオートミールの山を置いただけだ。



これは丸い大きな紙皿に寒天培地をつくり、菌体を増殖させたものである。わずか24時間でこの状態になり、更に隙間に餌を置くと、倍に増える。古い菌体塊は、適宜ピンセットで取り除いたほうが良い。



他の培地に移したい場合や、希望者に「郵送」したい時は、写真のような丸い容器(化粧品クリームを小分けする容器)で、寒天培地ごとくり抜くと良い。



このように、「半分餌、半分変形体」のような場所が一番良い。タッパーでも紙皿でも、寒天培地ごと容易に剥離できるのが便利だ。



剥離には、ピンセットが適しているが、なければ楊枝に挿しても良い。「わらび餅」を取り分けるようなものだ。雑菌(特にカビ類の孢子)の混入を避ける為、手指やピンセットはその都度アルコール消毒をし、それでもできるだけ素手で触らないほうが良い。